〝復曲〟は埋もれた文化遺産の発掘
～最終章～

復曲「大磯」

第九回湘南ひらつか能狂言

曾我物語から平塚ゆかりの
虎御前と十郎祐成の能がよみがえる。

会場 ひらしん平塚文化芸術ホール

2023年2月12日(日)

開場／13:15　開演／14:00

【演　目】独吟「伏木曽我」、仕舞「小袖曽我」、復曲「大磯」
【出演者】加藤眞悟（重要無形文化財 能楽の保持者）ほか
【チケット】全席指定 S席 3,000円　A席 2,500円
※未就学児の入場はご遠慮ください。
【販　売】インターネット販売
平塚市まちづくり財団 コンサート 検索
ファミリーマート店内　マルチコピー機
ひらしん平塚文化芸術ホール 総合受付窓口　TEL0463-79-9907
【発売日】2022年12月20日（火）10：00から

第八回湘南ひらつか能狂言「和田酒盛」より　撮影：新宮夕海

学生（小学校4年生以上）無料招待席あり 先着30名 ※小学生は保護者（1名）の方と一緒にご参加ください。

往復はがき（1名につき一枚）に、住所・氏名（ふりがな）・学校名・学年・年齢・電話番号を明記の上、下記あて先までお申し込みください。
申込締切：2023年1月25日（水）の消印まで有効

主 催／（公財）平塚市まちづくり財団・湘南ひらつか能狂言実行委員会
後 援／平塚市教育委員会、小田原市教育委員会、大磯町教育委員会、二宮町教育委員会　　協力／一般社団法人 復曲能を観る会

【お申し込み・お問い合わせ】 ※この事業は平塚市文化振興基金の一部を活用して実施しています。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止となる場合があります。
〒254-0045　平塚市見附町 31-10　（公財）平塚市まちづくり財団　文化事業課　「湘南ひらつか能狂言」係 ＴＥＬ：0463-32-2237

第九回 湘南ひらつか能 狂言

令和五年二月十二日(日)午後二時開演
於・ひらしん平塚文化芸術ホール

お話
『曽我物語』と虎の実像　東京大学名誉教授　保立　道久

独吟
伏木曽我　加藤　眞悟

仕舞
小袖曽我
五郎　梅若　志長　　梅若　紀佳
十郎　梅若万三郎　　青木　健一
地謡　梅若　紀長
梅若　泰志
中村　政裕

お話
《大磯》の音楽的な復曲作業　昭和音楽大学講師　丹羽　幸江

お話
江戸時代の謡文化と謡曲《大磯》　法政大学文学部教授　伊海　孝充

休憩(二十分)

(三時十五分頃)

能
復曲
大磯
前シテ　女
後シテ　虎ノ霊　加藤　眞悟
旅僧　安田　登
所ノ者　奥津健太郎
後見　梅若　泰志
梅若　紀長
大鼓　大倉正之助
小鼓　久田舜一郎
笛　松田　弘之
地謡　梅若　志長　青木　健一
梅若　紀佳　長谷川晴彦
中村　政裕　古室　知也

終了予定午後四時半頃

独吟　伏木曽我（ふしきそが）

曽我祐成の墓所を訪ねた虎の夢中に祐成が現れ、幼い頃からの不遇を語り、富士の狩場で敵の工藤祐経を見つけながらも伏木に馬の足が取られ転倒し、討ち損なったが夜中に祐経の館に忍び込み本望を遂げたことを語ると虎の夢が覚める。独吟では祐経を見つけたところから最後までを舞います。

仕舞　小袖曽我（こそでそが）

曽我祐成は、工藤祐経を討つ前に、勘当されている時致を連れ曽我の里の母を訪ね、敵討ちを涙ながらに訴えます。やがて許され、門出を祝い酌を酌み交わし、舞を舞います。これが今生の別れと涙しますが、本望を遂げることこそ親孝行と心を奮い起こし富士の狩場へと向かう場面を紋服で相舞します。

能　大磯（おおいそ）

都の僧が陸奥に旅し、あまりに雪深く都へ上ろうと大磯まで辿り着く。日も夕暮れになり、俄かに雪が降る。火の光が漏れる庵が見え、そこで宿を取ろうとすると、庵のなかから身を嘆く女の声が聞こえる。僧が一夜の宿を乞う。女は旅人が世捨て人と分かると庵の内に招き入れ、僧に回向を願う。僧が誰を回向するのかと聞くと、「いにしえ此処に虎と申せし遊女の候ひしが、その跡を弔いて給わり候へ」と語り、虎の生い立ちから祐成との契りの深さ、頼朝が行った富士の巻狩りで祐成が敵討ちを果たした顛末までを語る。祐成の名は残れども命は消え失せ、嘆きは尽きせぬと袖を濡らし、涙ながらに祐成を追慕し、「あとを弔いて」と言うかと思うと、庵ともども女も消え失せてしまう。〈中入〉

僧は、草枕で一夜を過ごし、御経読誦すると虎の霊が雪女さながらの姿で現れ、廻雪の袖を翻し舞を舞ふ。やがて明け方の寺々の鐘が響き、夜明けの鳥の声が聞こえ、姿は夢と消えてゆく。

大磯はことに雪が多く降る土地柄ではありません。それなのに雪と虎を重ねた作品です。

親の仇、工藤祐経を討った時の祐成は二十歳、虎は十九歳。その後、虎は諸国の霊場を巡り、兄弟の菩提を弔い、やがて山下に庵を結び、六十三歳で生涯を閉じるまで、兄弟を供養する日々を過ごします。

男の性である敵討ちは何世代にもわたって引き継がれることがあります。雪は降り積もれば、目の前が白銀の世界となり、日常生活を一旦止めます。虎は母性からか、敵討ちの連鎖を止めるべく雪女として現れ、日常の思考を一旦止めて冷静に考える時間を与えに来ているかのように思える作品です。

また『大磯』は、江戸時代に素謡の曲として作られたものらしく、作者は俳人大淀三千風の可能性が高いです。大淀三千風は元禄九年頃大磯に鴫立庵（しぎたつあん）を結び西行堂を建立し、謡曲「鴫立沢」を刊行しています。この『大磯』の舞台となった庵は鴫立庵かも知れません。

謡本「大磯」ご案内

復曲検討会では、江戸時代の《大磯》謡本数冊を精査し、現代人が謡える本を制作しました。語釈が附記され、字が大きく、鑑賞の手引きとしてお使い頂けます。
当日ロビーにて1,100円でお求め頂けます。

※今回の企画は平塚市にゆかりの「大磯」を復曲にテーマを絞り狂言はございません。予めご了承ください。

湘南ひらつか能狂言ではこれまでに『源平盛衰記(せいすいき)』を題材にした能《真田》、『曽我物語』から能《伏木曽我》《虎送》《和田酒盛》と今回の《大磯》の五曲を復曲しました。
これで平塚ゆかりの古能の復曲は完演となります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する注意事項

「注意事項」は状況によって変更となる可能性がございます。公演直前に平塚市まちづくり財団ホームページをご確認いただき、記載されている「注意事項とお願い」の内容をご了承の上、ご来場をお願いいたします。